

6つの島がくれたもの
 方へダカスコスルコスガアリエル
 冬休みに友人と二人で尾道というところへ
 旅行に行った。ここには「瀬戸内しまなみ海
 道」という75キロに及ぶサイクリングコース
 があって、本州と四国の間の島々を7つの橋
 で結んでいる。僕たちはこのサイクリングコ
 ースに挑戦することにしたのだ。
 この旅をしたのは12月末頃だったのだ言葉
 が凍って落ちるほど寒かった。サイクリング
 の日は朝早く起きた。まだ太陽が昇っていな
 い静かな朝、コーヒーを入れて、75キロの挑
 戦への心の準備をした。水筒、カメラ、食べ
 物。必要なものを全部カバンに入れて朝日と
 一緒に外に出た。
 服をたくさん着ていたせいひ最初は自転車
 を漕ぐのが難しかったが、すぐ慣れた。大き
 な笑顔で僕らは一番目の橋に向かって走り出
 した。自分の中の何かが変化し始めたような
 気分になった。海岸に沿って自転車で乗りな

から周りを見て、その美しい景色に言葉で表
 せたりほど感動した。鳥の鳴き声、澄んだ空
 気、出港する船の音、無限の海、一つの雲も
 なり青空、ベイエリアを囲んだ色とりどりの
 家、海辺で遊ぶ子供たち、自転車をこげばこ
 ぐほど新たな素敵なお景色が現れ、爽やかな気
 分になった。まるで自分が映画の中に入っ
 た気分だ。

この一番目の島からは物事の本質が感じら
 れた。落葉の精神、水の精神、風の精神、そ
 の島に住んでいる人々の精神。人も自然も全
 てが絶妙なバランスで作りだされて平等に生き
 ている。また最初の10キロしか走っていな
 ったが「ここにきてよかった」と思った。

一番目の島を乗り越え、すぐに二番目
 の島に着いた。この二番目の島に着いてから
 面白いことに気がついた。道路に沿って数え
 切れないほどのオレングジの木が並んでい
 った。オレングジの木は実がなるまでに3年か
 ら5年かかる。そして、50年から60年間生きら

あるようだ。この美しいオレンジの並木を通
 り抜けながら「時間、不思議なものだな」
 「60年が過ぎたのもうここに一本の木も残ら
 ないのか」と思っ、こしまった。
 「20年」とは長い時間か短い時間か。犬の
 命だったら長い、亀の命だったら短い、パソ
 コンだったら古い、家だったらけ、こう新し
 い。見方によっ、こ答えが違っうだろう。僕にと
 っ、こ20年は非常に短い時間だ。なぜかと言っ
 と今僕は20歳でやったいことには20年では足
 りないからだ。子供の頃、20歳の人はずっ
 立派な大人だと思っ、こいたか、今の20歳の自
 分は、大人とは何だろうと思っ。うまく時間
 を使う人、ちゃんと仕事をする人、家族をす
 る人、大人とは一体何だろうか。オレンジの
 木のせいかこんなことを考えながら何キロも
 走った。しかし突然前に現れた長い橋におど
 ろいこをん考えもどにかに行っ、こしまった。
 いつの間にかオレンジの木はもうなく、悩み
 もその島に置いこきた。

三番目の島に着く頃にほろキ口、コースの
半分ぐらい走っていた。この島には大きなビ
ーチがあった。このビーチに夫婦と子供がい
て、笑ったり、白い砂の上で遊んだりしてい
た。愛情にあふれていたと言っても過言では
ない。僕は自分の国にいる家族のことを思い
出した。子供の頃姉と僕は、彼らと同じよう
に父と母の愛情に満ちた日々を過ごしていた。
寝る前に本を読んだり、放課後にアイ
スを買ったり、愛情いっぱい思い出
がたくさにある。ビーチで遊んでいた子供の
一人を見て、特に弟のことを思い出した。弟
は今小学二年生で僕と13年も年齢差があるの
で赤ちゃんの時によく僕が面倒を見たものだ。
「マルコス、マルコス…」僕の思い出に割り
込んで来た。友人が僕の名を呼んだようだ。
サイクリングを始めってから七時間か経ってい
て、今五番目の島を走っていた。この島には
坂道が多く、足の疲れも寒さも体にこたえて
五番目の島は非常に辛かった。

最初にくじけたのは僕の仲間だった。後ろ
を見るこ、彼は自転車をおりて歩いていった。
僕もそろそろ限界だったけど「もし僕も歩み
始めたら、もし僕も諦めてしまったら、もう
このコースを最後までやりきれぬ気がしない
と思っただので、体の底から力を出した。言葉
に力を込めて「行こう！一緒に頑張ろう」と
友人を励ました。すると、なんと彼はもう一
度自転車に乗って僕を追い越したのだ。後で
友人が「君が応援してくれておかげで力が出
た」と教えてくれた。でも、実はその逆だっ
た。困っていた友人を見たからこそ僕が力が出
たのだ。一人だったと随分前に諦めていた
ところだったけど、友人がいたおかげで僕も
諦めなかった。

ちょうど日暮ぬの時、最後の橋を通ってい
た。何とも言えない素敵な色の夕日加山々を
赤く染め、雲も何百もの美しい色合いになり
それは決して忘れられない風景だった。こん
な美しい景色はまるで神様が作ったようだ。

た。「よく頑張った僕らにこれは神様からの
プレゼントだ」と思わずにいられなかった。
コースが終わった時はすでに夜だった。75
キロを自転車で走り抜いたのだ。6つの島一
つ一つに独特の魅力があった。その島から感
じたこともたくさんあった。この経験のなか
けで以前見えなかったことが見えるようにな
った。以前は考えなかったことを考えるよう
になった。僕にとって最高の旅行になった。